

授業科目名	保育内容言葉 I	担当教員名	松田 智子
必修/選択	必修(幼稚園教諭2種免許/保育士資格)	開講学年・学期	2年 後期(年間開講数 2講座)
科目区分	教職・保育に関する科目	単位数	2単位(30時間)
施行規則に定める科目区分等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) 保育の内容・方法の理解に関する科目(別表1)	授業方法/担当形態	講義 / 単独
		特記事項	※「保育内容演習」の指導内容を含む
授業の到達目標	<p>1-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容:幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想:幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>①幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>2-保育内容演習</p> <p>(1)養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>(2)子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</p> <p>(3)上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>(4)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p>		
授業の概要	<p>保育内容領域「言葉」では、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目的とする。言葉(word)とは、コト(言)とハ(端)との複合語であり、乳児の泣き(前言語的な発達段階)は空腹や不快感などの欲求を伝達や意思疎通のための言葉である。また、言語(language)とは音声や文字(道具)による言語体系であり、音声言語(話し言葉)と文字言語(書き言葉)に分類することができる。この授業では、保育現場実践に役立つための基礎的な知見と、それらをふまえた実践方法について学ぶために、協同学習の理念と手法に基づいた話し合い活動(LTD: Learning Through Discussion)を通して、具体的な「言葉」の指導方法を探究する。</p>		
テキスト	保育内容言葉-基本的事項の理解と指導法- 戸田雅美編集 建帛社		
参考書・参考資料等	適宜指示する、授業中にプリントを配布する		
成績評価の方法	期末試験(50%) 課題レポート(30%) 受講態度積極性(20%)		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	オリエンテーション:履修上の諸注意、評価方法・基準の説明、保育内容5領域における領域「言葉」「言葉」の位置づけについての概説	1-(1)-①	
第2回	幼稚園教育要綱、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」について:領域「言葉」目的・ねらいの理解、幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における内容の比較から概説	1-(1)-①,(2)-①	
第3回	言葉の機能について理解する。言葉の美しさや楽しさを味わうことを実際に体験し理解する。多くの言葉遊びがあり、子どもの成長と重なっていることを知る。子どもの言葉の持つ意味について、事例をもとに話し合っ読み取ることができるようになる。	2-(1)(2)	
第4回	子どもの育ちと言葉の育ちの道筋について理解する。①言葉の発達の道筋を理解する意味を知る②子どもの誕生以前の言葉の役割を知る③一語文から二語文への変化を理解する④言葉の発達や会話の発達支援について理解する⑤言葉と思考との関係を具体的に知る⑥話し言葉から書き言葉への移行の環境支援を知る	1-(1)-② 1-(2)-①	
第5回	保育における「要領」「指針」の全体構想と言葉を理解するために関係性について知る。小学校との接続についても理解する。「保育の基本」としての共通性と、その評価の方法を理解する。領域「言葉」の狙いと内容と指導上の配慮について理解する	1-(1)-③,④	
第6回	0歳児の言葉の具体的指導方法 ①言葉の前の言葉を理解する②相互応答的な関りの意味を学ぶ③繰り返しとずらしの効果を知り活用する④指さしと三項関係の意味を理解する⑤一語発話の時期を理解し支援する方法を理解する⑥発話を促す保育者のかかわりを理解する	2-(2),(3),(4)	
第7回	1歳から3歳児までの言葉の具体的指導方法 ①1歳から3歳児までの言葉の発達(言葉の誕生、一語の多様性、生活経験との関連、質問期、模倣の繰り返しと言葉の獲得)を知る②言葉が育まれる前にどのような環境を整備したら良いかを理解する。日常生活に必要な言葉を知り指導方法を理解する③保育文化財(絵本、手遊び、リズム遊びなど)を知り指導方法を理解する	2-(2),(3),(4)	
第8回	言葉で伝えあうことの喜びを指導する ①言葉への興味を高め大人が書くことで育つものとする ②言葉で思いが伝わる他の時差の保育事例を参考に、保育者の声掛け等を分析する ③遊びの中での協働的な体験で起こる伝えあいの事例を参考に保育者の声掛けを分析する	2-(3),(4)	
第9回	保育が遊びという環境を通して行われることを確認し、遊びから生まれる表現「言葉」の指導方法を学ぶ ①心の動きと言葉を理解する ②自分の気持ちを表現する方法の指導を理解する ③言葉遊びや劇的な遊びを支援する保育士の声かけ指導を理解する ④気持ちが豊かになる言葉を指導する方法を理解する	2-(3),(4)	
第10回	言葉の機能として、子どもの生活意欲を高める指導を理解する ①体験を通して言葉を獲得するために体験の質を選択する ②自分一人で考えるときと友達とみながら考えるとき、指導方法の差を理解する	2-(3),(4)	
第11回	「言葉」の発達と遅れに対する合理的配慮と支援:3歳児から6歳児を対象とした実践事例・方法の探究。複数の園における実践指導事例を参考に、「合理的配慮」が必要な子どもも含まれるクラスを対象とした実践を想定した指導案作成・発表【模擬保育】	1-(1)-②,(2)-④,⑤	
第12回	言葉を育む文化財の活用 ①絵本、物語、アプリ、動画ソフト、言葉あそびなどの実践事例を視聴し、それを参考にしながらパワーポイントや動画等を作成する【情報機器を活用した授業設計】	1-(2)-②	

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第13回	保育内容「言葉」の指導計画と評価：評価の種別・方法についての基礎理論と、幼稚園教育要領に示されている評価観点・到達目標水準と評価方法についての基礎知識の習得	1- (2) - ③,④
第14回	言葉をめぐる相談と保護者との連携 ①子どもの言葉に悩みを持つ保護者への相談と助言の方法を理解する(吃音、虚偽癖など) ②言葉の遅れや発達の遅れに対する助言方法 ③保護者の悩みを共有して、改善する指導の在り方を知る	3
第15回	保育内容言葉 I まとめ	(1)-①,(2)-⑤
定期試験	筆記試験	